





令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

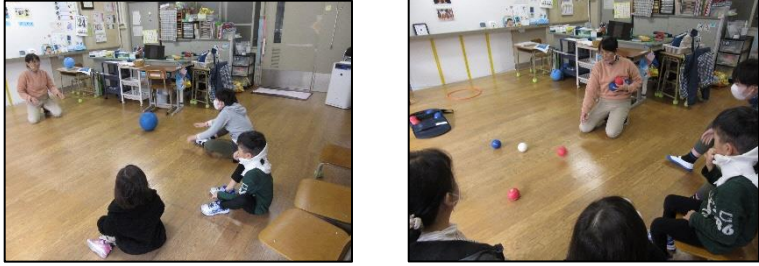
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立 田主丸特別支援学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑦（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	小学部1組 B類型 小学1年 2名 小学5年 1名 計3名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (特別活動) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○写真や画像を見ながら話を聞き、オリンピック・パラリンピックについて知ることができる。 ○パラリンピック競技を知り、自分が感じたことを発表することができる。 ○ボッチャや、ゴールボールの道具に触れ、積極的に活動することができる。
5 取組内容	○オリンピックのロゴや、マスコットキャラクター、主な競技の写真を見て、知っていること、思ったことを発表する。 ○パラリンピックの、競技の写真や、映像（ダイジェスト版）を見て、気付いたこと、思ったこと（やってみよう競技、すごいと思ったことなど）を発表する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

	<p>○本校で実際に体験できる競技「ボッチャ」「ゴールボール」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見る。 ・実際に、用具に触れる体験をする。 ・簡単に、ボールを使って遊んでみる。(ボールを投げたり、転がしたりする。)  <ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表する。 <p>○体育の授業で、「ボッチャ」「ゴールボール」を行うことを知る。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○写真や映像を見せることで、「見たことがある。」「この競技知っている。」など、オリンピックのことを思い出したり、興味をもったりすることができた。</p> <p>○パラリンピックの競技写真を見せることで、「車椅子のままバスケットしている。」「目隠ししてボールを取っている。」などに気付き、障がい者スポーツへの興味をもつことができた。(音声言語で表現することが苦手な児童は写真を指さして気付きを伝えることができた。)</p> <p>○実際に、用具に触れることで、「ボッチャのボールが転がりにくい」こと、「ゴールボールのボールに鈴が入っていて、音で分かるようになっている」ことなどに気付くことができた。</p> <p>○実際に、ボールを使って遊ぶことで、競技のイメージをもち、体育で行うことへの期待感をもつことができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○写真や映像を多く取り入れ、視覚的に理解し、興味をもてるようにした。</p> <p>○実際に、用具に触れたり、転がして遊んだりする活動を取り入れ、競技へのイメージをもちやすくした。</p> <p>○体育での、実際の体験につなげることで、より障がい者スポーツを身近かなものと感じられるようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○教室で行ったため、実際にボールで遊ぶ時に、机などが邪魔になった。</p> <p>体育室など、広い場所で行う方がよかった。</p> <p>○気付きや、思ったことを発表してもらったが、聞くのみになったため、板書して残し、振り返ることができるように工夫すべきだった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○コロナが終息して、講師の招へいが可能になれば、実際の選手を招き、話を聞いたり、一緒に競技をしたりして、オリンピック、パラリンピックへの興味を高める。</p> <p>○講師招へいが不可能であれば、「ボッチャ」「ゴールボール」の取り組みを継続しながら、実際の「パラリンピック」への興味を促す。</p>


令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 田主丸特別支援学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	中学部 3年生1名と1年生1名、計2名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育科)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	障がいの有無、年齢、性別、国籍に関わらず誰でもスポーツを楽しむことができることを知り、自発的に、楽しみながらスポーツに触れることができる態度を育てる。
5 取組内容	<p>① オリンピック・パラリンピックの話をする。 ・「オリンピック・パラリンピック」ってなあに？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;">世界最大のスポーツの大会</div> <p>② パラリンピック（ボッチャ）の日本代表選手が出演している映像を視聴する。 ・選手の高度な技術を見ることで競技に興味を持たせる。</p>  <p>③ スポーツの楽しさを伝える。 ・スポーツは性別、年齢、国籍に関わらず、世界中のどのような人でも楽しむことができる活動。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;">ボッチャはいろいろな人が楽しめるスポーツ</div>

	<p>③ ボッチャを実際にやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で実践。 ・ゲームを2人でやってみる。 
<p>6 主な成果</p>	<p>○工夫する態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白玉（ジャックボール）に近づけるために、映像で見た選手の発言を思い出して、投球するときの手の動きを自分なりに考えて工夫して、動かしていた。 <p>○向上心・達成感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでも白玉（ジャックボール）に近づけるために、また、ゲームに勝ちたいために、自発的に何度も練習を繰り返していた。 ・勝つとガッツポーズをしながら、跳び上がって喜んでいて。一方、負けた方も拍手をして勝者をたたえて、「すごい」と一緒になって喜んでいて。勝負の中にも相手を思いやる気持ちが表れていた。 <p>○後日、生徒から「ボッチャすごかった？」や「また、やりたい」ということを自分から話しかけてきた。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○生徒は健康上の理由により通常の授業時間に制限があるため、保健体育の時間を使い今回の事業を行った。保健体育の授業回数が少なく、授業時間も短い。さらに、生徒は長い時間の説明が苦手なので、オリンピック・パラリンピックの説明やボッチャのルール説明は簡潔に行い、少しでも身体を動かす時間が確保できるようにした。ボッチャの高度なテクニックや面白さを伝えることに重点を置き、生徒が「実際にやってみよう」という気持ちを引き出すことと楽しさを伝えることを心掛けた。大切なことはスポーツで体を動かす楽しさを知ること、自分でもやってみようという気持ちを持つことだと考える。そのため、ルールは実践しながら習得し、必要最小限に留めた。また、できるだけ待ち時間を減らし、活動できる時間を確保するようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○次回以降、生徒の実態に応じて、ボッチャのようにルールが複雑でなく、生徒が気軽に取り組める競技を選ぶ。そして、その競技への興味を高められるような指導の工夫を行っていく必要がある。</p> <p>○本校中学部ではこの体育の授業を受けるのが2人だけである。また、今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、他学部生徒との合同授業もできなかった。そのため、もっと多くの生徒と一緒に、楽しい雰囲気の中で、みんなで盛り上がり意欲が高まるような授業を行いたい。</p>

9来年度以降の 実施予定	○同じスポーツを何度も行っていると生徒は飽きてしまうので、年間を通してできるだけ多くのスポーツに触れる機会を作る。そのことで興味を持つスポーツを増やしていく。今回行ったボッチャだけでなく、他のスポーツも毎年行うことで技術向上を図り、様々なスポーツの楽しさと奥深さを知ることを進めていきたい。
-----------------	---

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立田主丸特別支援学校 】

1 実践テーマ	I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部1～3年生 B類型 6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な探求の時間、保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックを通して、障がい者の社会参加や社会のバリアフリー化が進められてきたことを知る。 ○公共マークを通して共生社会について考える。 ○色々なパラリンピック競技について知り、スポーツや社会参加への意欲を高めることができる。 ○パラスポーツを体験し、スポーツの楽しさやチームで協力することの大切さを感じることができる。
5 取組内容	I ○オリンピック・パラリンピックの歴史や意義についてクイズに答えながら学習する。 ○「パラサポWEB」のサイトで色々なパラリンピック競技の動画などを観る。 ※障がい種に応じてルールや用具にどのような工夫がされているか注目させる。 ○「マイパラ」の「パラスポーツ診断」のサイトで自分に合ったパラスポーツを探す。(自分の障がい種などに関する質問項目を画面で順に選択していくと、いくつかのパラスポーツが紹介される) ※自分や友達が紹介された色々な競技を通して、色々なスポーツを楽しめることに気づくことができるようにする。 II ○公共マークについてスライドで学習する。(盲人のための国際シンボルマーク、白杖SOSシグナル、補助犬、耳マーク、聴

覚障がい者標識、身体障がい者標識、アクセシブルアイコン、ヘルプマーク、オストメイトマーク、ハート・プラスマーク)
 ○福岡県のヘルプカードを印刷したプリントに記入し、ヘルプカードを作成する。



パラリンピッククイズ

もんだい 2

だい 1回
 パラリンピックが
 ひらかれた
 くには どこでしょ

公共マーク

ヘルプマーク

Ⅲ

○ボッチャ、ゴールボールの体験

- ・自分に合った投げ方を練習する
- ・必要に応じて補助具を活用する
- ・チームで各自の得意な面を生かせるように、作戦を立て協力して戦う

※体育ではその他の競技においても、個々の障がいに応じてルールや補助具を工夫することで、参加意欲を高めスポーツの楽しさを感じられるようにする。



6 主な成果

- オリンピック・パラリンピックの歴史や意義を知り、大会や競技への関心が高まった。
- 自分の障がいについて考えたり教師に質問したりしながら、「パラスポーツ診断」を楽しみながら意欲的に取り組む姿が見られた。
- 公共マークの意味や役割を知り、必要な援助を求めたり、誰かを援助したりする方法を具体的に考えることができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- パラリンピックについての学習教材では、障がいがある方への接し方など、健常者の児童生徒向けの内容が主で、障がいをもつ児童生徒向けのものがあまり無いように感じた。そのため、パラサポWEBなどのサイトの内容を参考にしながら、肢体不自由や知的障がいをもつ生徒が共感・理解できるように留意して教材の作成や活用を行った。

8 主な課題等

- 学習した内容について、実際に外出体験をする中で、公共マークに気づいたり配慮したりする機会をもつことが必要であると思われるが、そこまでは実施できていない。

9 来年度以降の実施予定

- 今後も体育の授業で、身体障がい者体育大会の競技種目やボッチャやゴールボールを取り入れ、パラスポーツを体験させるとともに、できる限り障がい者スポーツの大会への参加機会をつくる。